

29年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 5月1日～ 29年5月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 18.8	△ 37.5	△ 18.8
	マツ	△ 22.2	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 27.8	△ 33.3	△ 16.7
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 21.4	△ 28.6
	マツ	△ 28.6	△ 14.3	△ 21.4
	広葉樹	△ 28.6	△ 14.3	△ 21.4
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 37.5	△ 31.3
	マツ	△ 31.3	△ 37.5	△ 31.3
	広葉樹	△ 27.8	△ 38.9	△ 33.3

・チップ用原木の荷動き動向は、入荷、消費、在庫とも減少で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ	0.0	8.3	0.0
マツ類	0.0	7.1	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ及びマツ類チップ用国産原木の価格動向は、5月の横ばいが6月はやや強含み、7月は再び横ばいに。広葉樹は5月の弱含みが6月、7月は横ばいに。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ・ヒノキ及びマツについては、森林再生事業の材の入荷が見込まれる。広葉樹は季節的な要因により増加が見込まれる。在庫はスギ→4.5カ月、マツ3.5→3.5カ月、広葉樹1.0→1.5カ月（東北）。

・針葉樹材は、バイオマス発電用に流れている（関東）。

・仕入は良好、消費は変動なし、在庫も変動なし（中国）。

・天候もよく当月出材は横ばい。5月、6月は虫が入る時期にして、仕入、消費、在庫ともに減少の見通し（四国）。

・仕入については、5月は全樹種とも前月並みに入荷すると予想する。6月の梅雨時期には減少すると思われ、梅雨が明ければ回復するだろう。消費は、今年の製紙用の点検月の影響は少なく済みそう。多少減だが、その後は順調に生産できそう。在庫は、出荷が順調にできれば少なめで推移しそう（九州）。

・スギ原木は基本的には仕入をしない。広葉樹は材が入らない。広葉樹の仕入状況に応じて生産して

(原木価格)

・樹種を問わず微増（東北）。

・バイオマス発電が本格稼働すると、チップ用原木の購入価格をも値上げしないと確保できなくなる（関東）。

・原木の購入価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともに変動なし（中国）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともに購入価格に変動なし（四国）。

・当面、価格の変動はないが、針葉樹は製紙用、発電用とも大変採算の厳しい高値となっている（九州）。

・スギチップは購入していない（九州）。

29年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 8.3	△ 16.7
	マツ類	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 28.6	△ 14.3	△ 21.4
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 7.1	△ 14.3
	マツ類	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 35.7	△ 18.8	△ 25.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 30.0	△ 30.0
	マツ類	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
	広葉樹	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9

・木材チップの荷動き動向は、生産、出荷、在庫とも減少で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	29/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ類	8.3	0.0	0.0
マツ類	7.1	0.0	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・スギヒノキ類の木材チップ出荷価格動向は、5月の強含みが6月、7月は保合に。広葉樹は5月の弱含が6月、7月は保合に。

モニターからのコメント

(木材チップの荷動き)

- ・樹種を問わず微増（東北）。
- ・バイオマス発電が本格稼働すると、チップ用原木の購入価格が上げしないと確保できなくなる（関東）。
- ・5月は広葉樹チップ20%の減である（関東）。
- ・木材チップの生産、出荷、在庫ともに変動なし（中国）。
- ・生産は、製紙、ボード、燃料用受入れに制限なく安定であるが、入荷状況にて当月は横ばい。出荷も生産に同じ（四国）。
- ・生産・出荷とも、製紙会社は5月は点検月のため例年大きな減産となる。今年はチップの消化が順調とのことで、5月も別ヤードでの受け入れがあるために少しの減産で済みそうだ。弊社ではチップの在庫はしていない（九州）。
- ・粗飼料、敷料、土壌用のスギチップは、他業者より購入している（九州）。スギは出荷してないし、広葉樹は6月よりやや増加。スギ在庫はなし、広葉樹はサイロに少し（九州）。

(木材チップ価格)

- ・広葉樹チップ、針葉樹チップとも500～1,000円/ト値上り（東北）。
- ・広葉樹チップが5月から値下げである（出荷量も20%減）。為替関係で輸入チップの方が安値のためか？（関東）
- ・木材チップの出荷価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともに変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格に変動なし（四国）。
- ・今年度は価格の変動はない（九州）。
- ・スギは出荷なし、広葉樹は横ばいで現状維持（九州）。